

投稿規程

- 1) 投稿論文は動物(家畜、家禽、実験動物、魚類など)の遺伝一般に関わるもので、本誌に掲載の価値のある内容を持ち、本投稿規程に従ったものでなければならない。また、他誌に未発表のものに限る。
- 2) 本誌に掲載する論文の内、総説、ミニレビュー、解説は編集委員会が依頼するものとするが、一般の寄稿も歓迎する。ただし、掲載の適否は編集委員会が判断する。
- 3) 論文の適否は編集責任者(セクション・エディター)の選んだレフェリー〔2名〕の校閲を受けた後、セクション・エディターと当該レフェリーの合議により決定される。したがって、原稿を返却したり、訂正を求めたりする事がある。
- 4) 本誌に掲載された論文の著作権は日本動物遺伝育種学会に帰属する。
- 5) 原著論文〔短報も含む〕は英文または和文とし、別に定める手引き(項目12)にしたがって作成する。
- 6) 原著論文は刷り上がり6ページ以内とする。〔英文では700語、和文では2500字が刷り上がり1ページに相当する〕
- 7) 短報は次の規定に従う。
短報は予報、速報などとする。刷り上がり2ページを超えないものとする。短報の構成は原著論文に準ずるが、要約は不要。
- 8) 論文の掲載費用
項目6と7のページ制限を越えないものについては無料とし、それを越えるものは、実費を著者負担とする。印刷について、特別の指定のあるものは、その費用の総てを著者負担とする。
- 9) 別刷りに付いては、基本単位を100部とし、必要部数を表紙に記入して申し込む。その実費は著者負担とする。
- 10) 校正について
著者による校正は1回とする。校正の際、字句の追加、削除、または文章の移動は許されない。著者校は指定された期日までに返送しなければならない。
- 11) 編集・出版は電子情報により行うようにし、経費の節減を図る。
- 12) 原稿の作成の手引き
投稿論文は英文または和文とし、つぎの規定に従って書く。
 - (1) 英文の場合：
英文原著論文の構成は、第一頁目に英語で「表題」、「著者名」(複数著者で所属が異なるときは各著者名の最後に右肩に数字を付す)、「所属機関名」(複数著者の所属が異なるときは所属機関名のはじめに左肩に数字を付す)、「その所在地」(所属機関に準ずる)、要約、キーワード(5単語以内)の順で表記する。次いで、日本語で表題、著者名、所属機関名とその所在地を表記する(この部分は、日本語目次に使用する)。続いて、英語で連絡者(この部分は脚注となる):氏名、所属、〒番号、住所、(e-mailアドレス)を表記する。次いで、英語でランニングタイトル(英語で語間スペースを含め40字以内)を表記する。第二頁目以降は、本文〔謝辞〕、文献の順とする。
 - (2) 和文の場合：
和文原著論文の構成は、第一頁目に英語で「表題」、「著者名」(複数著者で所属が異なるときは各著者名の最後に右肩に数字を付す)、「所属機関名」(複数著者の所属が異なるときは所属機関名のはじめに左肩に数字を付す)、「その所在地」(所属機関に準ずる)、要約、キーワード(5単語以内)の順で表記する。次いで、日本語で表題、著者名、所属機関名とその所在地、要約、連絡者(この部分は脚注となる):氏名、所属、〒番号、住所、(e-mailアドレス)を表記する。続いて、日本語でランニングタイトル(日本語で20字以内)を表記する。第二頁目以降は、本文〔謝辞〕、文献の順とする。
 - (3) 投稿
 - ・投稿は、電子メールによる。
 - ・原稿はパーソナル・コンピュータを用い、Microsoft Wordにより作成する。
 - ・論文審査および編集・出版を可能な限り電子情報により行うため、当該セクション・エディターへ電子メール・添付ファイルで送付する。適当なセクション・エディターが見つからない場合は編集委員長に送付する。
 - ・ファイルは著者が保管し、セクション・エディターの指示に従って修正し、期日以内にセクション・エディターに電子メールで送付する。
 - ・受理が決定した場合には、編集委員長の指示に従い、そのファイルを印刷担当部署へ電子メール・添付ファイルで送付する。

- ・ 郵送による投稿はこれを受け付けない。
 - ・ セクション・エディターは原稿の受領および審査の結果を編集委員長に速やかに連絡する。
- (4) 英文論文は A4 判の用紙に上下、左右とも約 2.5 cm の余白を残し、12 ポイント／ダブルスペースでタイプする。1 ページ当たり 26 行とする。英文は十分推敲し、かつ科学論文作成に造詣の深いネイティブ・スピーカーの校閲を受けたものが望ましい。
- (5) 和文論文は A4 判の用紙に 35 字 × 25 行の横書きとする。その際、現代かな使いと常用漢字を用いる。数字は総て、算用数字を用いる。また、諸単位の略号は原則として SI 単位を用いる。
- (6) 引用文献リストは次ぎの手順により作成する。
- a. 文献の引用は著者名〔全員〕、発行年、表題、雑誌名、巻、最初一最終ページの順とする。
 Drori D, Loosli JK. 1959. Influence of fistulation on the deigestibility of feeds by steers. *Journal of Animal Science*, 18: 206 – 210.
 佐々木清綱・松本久喜・西田周作・茂木一重. 1950. 牛の血液型に関する研究. *日本畜産学会報*, 27: 73 – 76.
 - b. 単行本の記載は著者名、発行年、書名、版、引用ページ、出版社、発行地の順とする。分担執筆の場合は、書名の後に“…の項執筆”と書き、編集または監修者の名前を入れる。
 Nalbandov AV. 1963. *Advances in Neuroendocrinology*. 2nd ed. 156 – 187. University of Illinois Press. Urbama, IL.
 Folly SJ, Malpress FH. 1948. Hormonal control of mammary growth. In: *The Hormones Vol. 1.* (Pincuss G, Thimann KV eds.) 695 – 743. Academic Press. New York.
 諏訪良夫. 1977. 定量形態学. 第 1 版. 12 – 23. 岩波書店. 東京.
 - c. 文献リストは、筆頭著者のアルファベット順に整理する。同一著者の複数の文献の場合は発表年順に整理し、1992a、1992b、1992c の様に年の後にアルファベットを付け整理する。
 - d. 本文中には文献を引用した個所の直後に(著者名と年号)をカッコ付きで挿入する。本文中に著者名を引用する時は 2 名までは連記し、3 名以上では英文では“*et al.*”を、和文では“ら”と略記し、直後に年号を括弧付きで挿入する。
 例 英文：
 --- (Nalbandov 1963), --- (Smith *et al.* 1950; Drori & Loosli 1958).
 Nalbandov (1963) Drori and Loosli (1958), Smith *et al.* (1950).
 和文：
 -- と報告した (Nalbandov 1963)。 --- と報告している (Smith ら 1950; Drori と Loosli 1958)。
 Nalbandov (1963) は ---、Drori と Loosli (1958) は ---、Smith ら (1950) は ---
 - e. 雑誌名は略さない。
 - f. 文献の記載には特に注意を払い、正確を期すこと。
- (7) 図版の原図および表について
- a. 図および表はそのまま印刷ができるものにする。
 - b. 表は A4 版の白紙に一枚ずつ英語で記入する。マイクロソフトワードを用いて表を作成できるが、特殊な飾りは用いない。また、パワーポイントを用いて表を作成しない。
 - c. 図の説明はすべて英文で、別紙にまとめ、表と共に原稿の最後にまとめる。
 - d. 本文中に図、表の挿入場所を指示する。
- (8) 要約について
- a. 英文論文の Abstract は 400 語以内とする。
 - b. 和文論文の要約は 600 字以内とする。さらに、和文論文の場合には 400 語の英文抄録をつける。

2003 年 11 月 7 日 改正施行
 2005 年 5 月 20 日 改訂施行